

男性薄毛は髪の毛の太さに起因しているのに対して、 「女性薄毛は髪の毛の本数に起因」している事実を確認

近年女性の薄毛に対する関心が急速に高まっています。資生堂では日本人女性 150 人以上の頭髪について詳細な調査を行い、女性の薄毛化は**毛髪が細るのではなく、本数の減少が大きな要因である**ことを突き止めました。これは昨年資生堂が発表した男性の薄毛化の主な要因「本数減ではなく髪が細くなることに起因している」とは全く逆の事実を示しており、女性と男性の薄毛化メカニズムが異なることが明らかになりました。

40 歳代から 50 歳代の女性の毛包(※1)の状態を観察した結果、薄毛化が進行している頭皮では、薄毛化していない頭皮と比べ、成長し続ける毛髪が少なくなっていることが分かりました。つまり、成長を休止した毛髪が抜けた後、次の毛髪が新生するまでに時間を要するため、結果的に毛髪数が減少し薄毛化してしまいます。

資生堂はこの知見をもとに、休止期の毛包を成長期へと促し、発毛を促進する植物由来の成分「パナックスジンセンエキス」を見出しました。

※1)毛包：毛髪の毛の毛穴より下の部分(皮下組織)で毛根を取り囲んでいる包状組織。毛包の最下部にある毛球が毛髪を作り出す。

薄毛化要因の検証

女性の髪に対する悩みには、髪質や白髪とともに髪の量に関係するものが多く挙げられます。特に 40 歳以降では「量が少ない、細くてコシがない」などの悩みを訴える女性が多く、最近では薄毛への関心が高まっています。

今回資生堂では、女性の薄毛の実態を把握するために、年代別に詳しく調査を行いました。16~68 歳の女性 159 名について外観判定を行なったところ、薄毛が増えるのは 30 歳後半以降であるということが判明したため、さらに薄毛の状況を知る目的で 40 歳~50 歳代の毛髪の太さ、本数、伸びについて調査しました。頭頂部を 5 ミリ角で毛を刈り、マイクロスコープで頭皮の拡大画像を撮影したところ、薄毛化が進行している人はそうでない人に比べて約 15%も本数が少ないことが統計的に認められました。

(薄毛：182 本/cm² 非薄毛：214 本/cm²)

一方太さに関して調べてみると、薄毛化がかなり進行した人の毛髪は細くなっているものの男性型脱毛に見られるうぶ毛化のような顕著な細りは見られず、本数の減少こそが薄毛化に大きく影響していることが確認されました。

本数減に関する検証

女性の毛髪本数について、慶應義塾大学工学部 柴田里程教授との共同研究により開発した判定方法を用いて、毛群(※2)ごとにより詳細な観察を行ないました。その結果薄毛化が進行している人とそうでない人では、毛群から生えている毛髪の本数に下記表のとおり差があることが分かりました。

1本毛群では薄毛が、3本毛群では非薄毛が高い値を示し、逆転していることが見て取れます。さらに、採取された頭皮を薄切後染色するという組織学的な手法で毛包の状態を観察したところ、

40・50歳代女性 N=23(薄毛),40(非薄毛)

	1本毛群	2本毛群	3本毛群
薄毛	32%	46%	18%
非薄毛	25%	43%	24%

薄毛化が進行している人は毛髪のない休止期の毛包が多く認められ、通常のヘアサイクルに比べて休止期が長いと推測されました。これらのことから、薄毛化が進行している女性では毛髪が抜けても次の毛髪がすぐには新生せず、結果として毛群から生える毛髪数が減少していると考えられます。

※1本毛群=毛群から1本だけ毛が生えている毛群を指す

※2) 毛群=毛包周囲の細胞を共有している毛髪。頭髪は2・3本が寄り添って生えていますが、皮下で毛包の周りの細胞を共有しているものを毛群といいます。

発毛促進成分の探索

以上の結果から、女性の薄毛は毛髪数が減少(ひとつの毛群あたりの毛髪数が減少)することによる薄毛化が主な要因であることが明らかとなりました。

これらの新知見に基づき、毛髪の本数減に対して効果的な成分の探索を行ないました。その結果、Panax Ginseng C.A. Meyer (オタネニンジン) の根から抽出したエキスである「パナックスジンセンエキス」が休止期の毛包を成長期へ促し、発毛を促進することを発見しました。

資生堂では、今後も男性・女性の薄毛に関する研究を深めていくとともに、効果的な育毛薬剤開発を進めていきます。